

ショック等の重篤な例もあるので、さらに一段改良せられた製剤が待望せられるのである。本院においては科研より提供された DDS を昭和 33 年 6 月より 28 例の肺結核患者に使用しその臨床効果を観察するとともに副作用に注目し、とくに一部の症例については聴力障害発生の有無を検索したのでその成績を述べる。治療効果は症例も少なくかつ全例他剤との併用で優劣を論じがたいが、聴力障害発症例なく他の副作用も軽微であり、とくに、SM によりなんらかの副作用を訴えた症例においても大部分使用可能であつたことより、DDS は臨床的に価値あるものと認める。

10. 絹糸草の葉緑素形成に対する Streptomycin の影響 (第 2 報) 佐藤裕 (湘南衛生研)

SM 200 γ /cc に 5°C で 4 日漬けた絹糸草の種子は純

度の高い水で 5°C で 1 日洗つてから水培地にうえても、それより生ずる葉は SM の作用をうけて葉緑体を欠く白葉である。SM 漬種子を洗う水の pH が 4.5 では生じた葉の 50 % が、pH 4.0 では 85 % の葉が葉緑体をつくる。pH 5.0~8.5 の間ではかかる著明な影響はない。同一の pH を示し磷酸塩の量を異にする緩衝液で同じ操作を行なうと洗液の磷酸塩が濃いほど葉緑体形成が多くなる。ゆえに H⁺ のほかに洗液の成分も葉緑体形成の回復に関与すると考え 0.07 N の Na, K, Li 塩溶液, 0.007 N の Ca, Ba, Mg, Sr, Zn 塩溶液で洗つてから水培地にうえると生ずる葉の約 80 % に葉緑体形成が起こつた。数種の塩で試みたところでは塩類は SM 漬種子が未活動あるいは微活動の時期に作用しないと葉緑体形成能を回復させがたい。

訂 正

34 卷 8 号 545~548 頁戸井田論文中に著者よりの訂正がありましたのでおしらせします。

○論文著者は齊藤千代との共著に訂正

○表 3

誤

反 応 温 度	Hydrazine mM/l $\times 10^3$
4° C	79.17
15° C	7.82
40° C	3.78
60° C	0.00

正

反 応 温 度	Hydrazine mM/l $\times 10^3$
4° C	3.78
15° C	7.82
40° C	79.17
60° C	0.00

結 核 第 34 卷 第 10 号 毎月 1 回 15 日 発行

昭和 34 年 10 月 10 日 印刷

臨時定価 150 円 (〒共)

昭和 34 年 10 月 15 日 発行

(振替) 東京 53756

編 集 兼 限 部 英 雄
発 行 人

東京 都 世 田 谷 区 経 堂 460

印 刷 所 王 文 社

東京 都 中 央 区 越 前 堀 2ノ24
電 話 (55) 5087-5088

発 行 所 日 本 結 核 病 学 会

東京 都 千 代 田 区 神 田 三 崎 町 1ノ2
電 話 (29) 1501~5